

桜島大正噴火遺産の保存および標本化について

鈴木 敏之

The Preservation and Specimen of Inheritances for Mt. Sakurajima Taisho Eruption in 1914

Toshiyuki SUZUKI

はじめに

鹿児島県内には、大正3（1914）年桜島大噴火の爆発および移住等の記念碑が存在している。これらの記念碑は大正噴火の驚異や防災の心構えを後世に伝える記録であり、貴重な大正噴火の遺産でもある。県立博物館では、平成21年度から過去の文献等をもとに桜島島内をはじめ種子島など県内各地にある爆発記念碑や移住記念碑などの現地での調査を継続的に行ってきた（鈴木，2010，2011，2012）。

本報告では、これまでの調査から各地に残る記念碑等の現状や今後の課題等も踏まえながら、その意義や役割等について考察するとともに、大正噴火の記念碑の保存やそれらの標本化についての取組について述べる。また、大正噴火時の火山灰層の剥ぎ取り標本作成の実際を併せて報告する。

1 桜島大正噴火爆発記念碑の現状および考察

(1) 調査結果のまとめ

県内には離島の移住碑も含めて桜島大正噴火に関する記述が記載されている記念碑が約50数基存在する（平成25年1月末現在）。平成21年から当館で確認した桜島大正噴火に関する記念碑の調査結果を示す。（一覧は文末の資料・表1参照）

①設置（建立）の地域と場所

記念碑は、桜島の島内はもちろんのこと、近隣の垂水市、鹿屋市などの大隅半島内をはじめ、対岸の鹿児島市内にも多く存在する（表2）。

また、桜島から移住した記録を残す記念碑が、垂水市や南大隅町、錦江町、大崎町の他に、遠くは種子島の西之表市や霧島山麓の小林市大王地区にも存在する。さらに、当時、風上であった地域や高台で噴火の影響や被害が比較的小さく、避難先として受

け入れを行った霧島市、始良市、鹿児島市（郡山）、日置市東市来町などの地域にも存在する。

表2 設置（建立）の地域

垂水市，鹿屋市，肝属南部	15
鹿児島市内（桜島以外）	9
桜島島内	8
霧島市，始良市	7
西之表市（種子島）	5
曾於市，大崎町	4
日置市東市来町	1
その他（宮崎県小林市大王）	1

（基）

建立の具体的な場所としては、地域の公民館、集会場や神社、学校、公園の敷地内が多い。また、県道をはじめ市町村の道路沿いに設置されたものも見られる（表3）。ただし、これらのうちのいくつかの碑は、残されている過去の写真記録などから、はじめからその場所に建立されたものではなく、何かの都合で他の碑と統合、移設された可能性があると思われるものもある。

表3 設置（建立）の場所

公民館，集会場，	13
国道，県道，町道沿い	10
神社	7
学校	6
公園	6
川沿い，海岸沿い	4
私有地，墓地	4

（基）

②設置（建立）の時期

建立時期について、記載がなく不明なものも多いが、記念碑の約半数は大噴火のあった大正時代に建

立されている（表4）。なかでも、碑文の記載からいち早く建立されたものは霧島市溝辺町にある碑（大正3年2月11日建立）である。また、一番新しいものは噴火90周年を記念した桜島袴腰にある碑（平成16年10月17日建立）である。

表4 設置（建立）の時期

大正時代 (うち大正3年の建立)	25 (4)
昭和時代	11
平成時代	2
不明（記載なし）	12

(基)



図1 南大隅町大中尾の移住記念碑

(図中右は平成10年2月建立の碑)

南大隅町大中尾にある移住記念碑（図1）は大正15年3月21日の建立であるが、この碑の近くに先人の移住開拓の偉業をたたえ、平成になってから新たに建てられた碑も存在する。

③設置者

設置（建立）者は、碑文に明確に記載されず不明なものが多い。県や市町村などの公的機関の長などの他は、青年団や移住者の子孫などである（表5）。大崎町野方の碑のように移住者の子孫が個人で建立した碑もある。

表5 設置（建立）者

公共団体（県、市町村）	13
青年団、青年会	5
耕地整理組合、工事委員	5
住民（移住民）一同、区長	3
地主一同	1
個人	1
不明（記載なし）	21

(基)

④碑の材質

石碑の材質に関しては、溶結凝灰岩で作られたものが半数以上を占める（表6）。特に、大正時代に建立されたものは、その当時、入手しやすく、加工しやすいものが使用されたと考えられる。桜島周辺では地元産の安山岩を使用しているところも多い。

表6 碑の材質

溶結凝灰岩	32
安山岩 (種子島黒みかげを含む)	10
砂岩	5
花こう岩	3

(基)

昭和や平成の時代に建立されたものや節目の記念に追加、建立された碑など比較的新しい碑では、花こう岩や安山岩などの岩石を使用している。宮崎県小林市大王地区にある移住記念碑は、故郷を偲び、桜島から石材として溶岩を取り寄せて使用している。下に碑文（抜粋）を示す。

〈移住80周年記念碑・抜粋〉

平成6年5月5日桜島町建立

哀歓を乗り越えて幾星霜
 ここ夷守山麓に王土大王を築いた
 先人の功を大正溶岩に刻み讃える
 桜島町長 竹之下 光



図2 小林市大王の移住記念碑

(左が桜島噴火移住80周年記念碑)

⑤碑の状態について

噴火後の大正時代に建立されて100年近くになる碑は、建立場所や管理の状況にもよるが、文字が風化したり、コケが生え、ツタがからまったりして、一部碑文が読み取れないものがある。特に、溶結凝灰岩で作られた碑に顕著である。

また、鹿屋市輝北町岳野にある爆発記念碑（図3）のように、すでに廃校になった学校の敷地の林の中に人目に触れずにひっそりと建つ碑もあり、貴重な噴火遺産として移設や表示板を掲げるなど手立てが必要である。



図3 鹿屋市輝北町岳野の爆発記念碑

⑥碑の内容について

記念碑の中には、爆発や移住に関する記載のものもあるが、耕地整理や河川改修碑の一部に併記されたり、碑文の一部に大正3年大噴火の様子や被害等が記載されたりしているものもある。

碑文の内容については、「桜島爆発」の文字が刻まれただけの碑もあれば、十数行にもわたる長文で噴火の経過や教訓等が刻まれているものもある。鹿児島市照国公園内の碑文を1つ例として紹介する。

（桜島爆発記念碑・抜粋）

大正三年一月十二日櫻島大ニ爆発ス之ヨリ先我邦ノ火山相次デ活動シ霧島數々噴火セリ識者謂フ櫻島亦警ムベシト十一日暁以來地震アリ時ヲ経テ頻々且激ヲ加ヘ又烟氣山腹ヨリ騰ルヲ見ル衆相危フム翌朝島内處々温泉沸キ冷泉進ル島民疑懼逡巡老幼マヅ避難ス午前十時ニ至リ前後ノ山腹相次デ大ニ爆発シ忽チニシテ黒烟天ニ漲リ飛石光芒ヲ曳イテ四散シ爆音地動閃電雷鳴耳ヲ聾シ目ヲ眩セシム市民先ヲ争フテ逃避ス午後六時俄ニ激震アリ家屋ヲ毀シ石壁ヲ倒シ断崖ヲ崩シ為メニ壓死セルアリ倉皇海ニ投シテ溺死セルアリ天神ケ瀬戸ノ崩壊ノ如キ一時二十名ヲ斃シ其數六十二名ニ及ベリ翌十三日夜又大爆発ト共ニ一大火柱天半ニ沖シ空ヲ焼キ波ヲ照ラシ赤熱ノ熔岩噴騰シ……

この碑は、鹿児島出身の地震学者今村明恒氏草案の碑で、鹿児島市が大正5年に建立したものである。噴火前後の桜島の様子や数時間後に発生した地震の被害状況、避難と救護の様子が20行にわたり詳しく記載されている。

また、文末には、建立の目的が記載され、後世に噴火の事実を継承するためとされている。今後、大正噴火遺産として災害への心構えを確認したり、教訓として防災教育等に利用したりして、様々な機会に積極的に活用することを提案したい。

（文末の抜粋）

…既往ハ追フ可ラズ來者以テ戒ムニ足ル蓋百年ノ後又此ノ如キ爆破ナキヲ保セズ為メニ概況ヲ記シテ不朽ニ傳フ庶幾クハ今回羅災ノ不幸ヲ用シ併テ後世永ク追憶シ以テ未來ノ慘禍ヲ軽減スルノ資ヲラシメンコトヲ

さらに大正噴火で被害が長く続いたり、移住を余儀なくされたりした桜島や大隅半島の各地及び土石流被害を繰り返した地域の碑ほど、その内容から住民の切実な思いや願いが伝わってくる。

例えば、串良川改修記念碑（鹿屋市串良町）の碑文の一部には次のように記載され

ている。（串良川改修記念碑・抜粋）

…翌大正三年一月櫻島爆発シ高隈一帯ノ丘陵ニ降下堆積セル土灰沙石ハ一雨毎ニ洗ハレテ河身ニ流出シ水底ヲ埋ムルコト三尺乃至一丈平時濁水堤防ヲ越エ縦横乱流シ良田ノ沙積ニ化スルモノ約百八十町而カルモ今後ノ災變測ル可ラス兩村民曰フ事此ニ至ル改修ノ事一日ヲ緩クス可ラスト乃チ相議シテ縣知事其他ノ臨檢ヲ請ヒ八月土木事務組合ヲ設置シテ組合債ヲ起シ……（省略）

大隅半島の各地では、厚い火山灰や軽石に覆われ、山地が荒廃したところに雨が降り注いだことにより、土石流が頻発し、田畑を埋め家屋や財産を押し流した。降灰が谷筋を埋めて川床は上がり、その後、10年近く水害が何度も繰り返し発生した。そこからは住民の苦悩が読み取れる。

南大隅町大中尾に建立された碑に

は「移住記念碑」の文字と共に「桜」のマークが刻まれている。遠く離れた故郷を偲ぶ移住した人々の思いが桜のマーク1つからも伝わってくる。

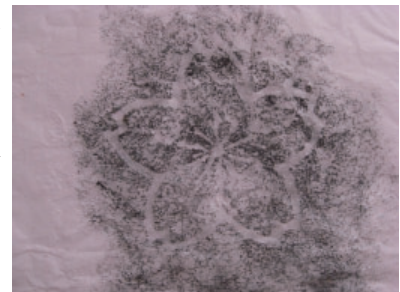


図4 大中尾の移住記念碑拓本の文字と共に「桜」のマーク、H24.11採取

また、この碑文が途中で途絶えているのは興味深い。地元で聞き取りを行ったが不明であった。これが何を意味するか今後の課題の1つとしたい。

(2) 今後の課題

県内に存在する大正噴火の遺産として、これらの資料を小・中学生などの若い世代への学校教育での活用法を検討していきたい。

今後、新たな記念碑が見つかる可能性があるため調査を継続するとともに、風化の進む記念碑については、関係機関や地元自治会などと連携をとって保護や保存の手立てを考えていきたい。

2 桜島大正噴火に関わる資料収集とその標準化

(1) 爆発記念碑等の拓本作成

拓本は、石碑に刻まれた文字や模様などを表面の凹凸を利用して墨で紙に写し取ったものである。平成21年度から当館の資料収集の一環で、湿拓法で拓本を取り、桜島大正噴火の記録として標準化を行っている。これまで5か所の拓本が完成している。

① 道具の準備（使用するもの）

- ・ 碑の清掃道具
竹串、竹へら、歯ブラシ、たわし等
洗浄用の水（汲み置きの水）、噴霧器
- ・ 和紙の貼付
ブラシ、タオル、白笈（漢方薬）を煮出した液、
水用のスプレー容器
- ・ 墨打ち
和紙、拓墨（拓本用の墨）、タンポ（大 小）
※和紙はパルプの割合が多いもの
- ・ その他
脚立（碑の大きさに応じて準備）

② 拓本採取の実際

ア 所有（管理）者への許可申請

実施目的や作業の実施時期等を説明して、必ず許可を受ける。

イ 採取の前準備（表面のクリーニング）

碑の状態にもよるが、この作業に時間がかかる。拓本作成に重要な作業の1つでもある。ヘラや竹串等を使って、碑文の文字のコケや砂、火山灰などの汚れを取り出し、丁寧に清掃する。水が自由に使えない場所もあるため、あらかじめ汲み置きの水と噴霧器を準備しておくといよい（図5）。



図5 石碑のクリーニング

ウ 和紙の貼付

和紙を石碑にいかに密着させるかが拓本の成果を左右する。和紙は可能な限りパルプの割合が高いものがよい。今回は蒲生和紙を使用した。和紙の上から霧吹きをしながら石碑と和紙をできるだけ密着させるようにする。その際に気泡を追い出すために、ブラシやタオルで和紙を慎重にたく作業を行う（図6）。

霧吹き液は水道水でよいが、漢方薬の白笈（びゃっきゅう）の煮出し液を水で約10倍に薄めたものを使用すると効果がある。



図6 和紙の貼付（気泡の追い出し）

エ 墨打ち

和紙の乾き具合を見ながら、拓墨（拓本用の墨）を用い、タンポで墨打ちを行う（図7）。最初は大きめに、徐々に細かい部分へ墨を打っていく。文字や模様の輪郭や端をはっきりさせる。タンポは文字の大きさ等を考慮し、大小いろいろな大きさのものを準備する。細かい部分は綿棒などを用いてもよい。たく力の差によってもむらがるため、全体を見ながら一様になるように力加減に気をつける。



図7 和紙の上からの墨打ち

オ 和紙の取り外し

和紙を破らないように慎重に作業する。風の影響もあるので、可能な限り複数の人数で行うようにする（図8）。

カ あとかたづけ

碑の表面や周囲を確認する。紙くずなどの残りがないうえをつける。

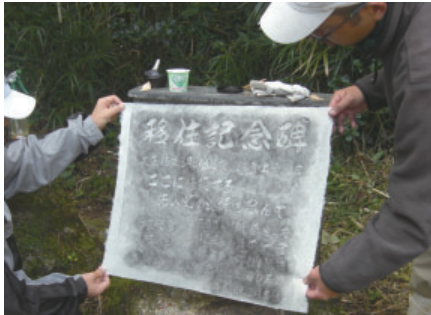


図8 和紙の取り外し

③拓本の標本化（展示に向けて）

これまで、試行錯誤を重ねながら5基の爆発記念碑等の拓本採取を行った。採取した拓本自体が貴重な資料であり、標本である。桜島大正噴火遺産として企画展等で実物の碑に近い状態で紹介する目的で、立体的な模型にして展示する標本も試作した（図9）。これらは平成25年度に県立博物館で開催する特別企画展「桜島火山100年の軌跡」で展示、公開する予定である。



図9 標本化した拓本の一例

④拓本作成を終えて（成果と課題）

ア 成果

・拓本の文字の一つ一つが現物の複写であり、再現性が高い。（画像では読み取れなかったり、文献等の誤植や記録ミスなど避けたりすることができる。）

イ 課題

・碑のクリーニングに時間がかかる。
・天候にも左右され降灰や風の有無によっても作業が影響される。
・墨打ちなどある程度熟練した技能を必要とする。

（標本として使用するものは、何回か試行が必要である。）

拓本を採取するためには、碑の状況や作業をする人数にもよるが、事前調査も含めてかなり時間がかかる場合があり、天候を含めて計画的な実施が必要とされる。

(2) 桜島火山灰層の剥ぎ取り標本作成

①下原遺跡について（概要）

この遺跡は、志布志市有明町伊崎田にあり、大隅半島東部の菱田川と安楽川により開かれた標高約100mのシラス台地上にある（図10）。平成24年度に県立埋蔵文化財センターが行った調査で、縄文時代から近代までの遺構や遺物が確認されている。現在の県道に平行して近世と近代と見られる2条の道路跡が見ついている。近代の道路跡からは蹄鉄が出土し、大正3（1914）年の桜島大噴火の火山灰が約10cm堆積した状況が報告されている（長崎，2012）。



図10 下原遺跡（白い部分が火山灰層）

②地層の剥ぎ取り作業

本遺跡で見られる桜島の火山灰層は極めて明瞭であり、古道上に堆積した火山灰の標本としての価値が高いと判断されたので、県立埋蔵文化財センターと連携して火山灰層を含めた地層の剥ぎ取りを実施することとした。

〔日時〕平成24年11月29日～30日

〔使用した薬剤〕

塗布剤：トマック NS-10

（希釈剤：ラッカーうすめ液）

〔準備〕

ねじり鎌、ガーゼ布、刷毛、竹串、剪定ばさみ、ゴム手袋、マスク

〔手順〕

（1日目）清掃と薬剤の塗布

ア 地層断面の清掃

剥ぎ取る地層断面をねじり鎌等を使用し、平坦にする。樹木根や突起物は除去する。大きく穴の

あいている部分があれば、薬剤を染みこませたガーゼを詰める。

イ 薬剤の塗布

剥ぎ取る地層面に薬剤を刷毛を用いて手早く、上から下に向けて内部に染みこませるように塗り込む。

ウ 布の貼り付け

剥ぎ取る大きさに合わせて事前につなぎ合わせたガーゼ布を剥ぎ取り面に貼り付け、さらに布の上から刷毛でたたきながら薬剤を塗布し、なじませる（図 11）。

エ 布の固定補強

竹串を適宜、突き刺してガーゼ布を固定し、薬剤が固まるまでしばらく放置する。今回は、一晩放置した。



図 11 薬剤の塗布（1日目）

（2日目）地層の剥ぎ取り

オ 竹串の切り取り

固まり具合を確認し、表に突出した竹串を剪定ばさみ等で切り取る。

カ 地層の剥ぎ取り

布の端を持ち慎重に剥がしていく。無理に力を入れると破れるおそれがあるのでゆっくりと作業する（図 12）。



図 12 地層の剥ぎ取り（2日目）

③仕上げおよび標本化

ア 剥ぎ取り資料の洗浄

剥ぎ取った地層面には凸凹があり汚れているた

め水道水を使って洗浄した後、乾燥させる。

イ 表面の保護処理

表面の火山灰や軽石が取れないように保護し、つやを出すために表面に希釈した表面処理剤（サンコールSK-50）を刷毛を使って塗布する。揮発性なので喚起には十分注意する。

ウ 剥ぎ取り資料の標本化

表面処理し、不要な部分を取り去って整形し、木枠に貼り付ける（図 13）。



図 13 完成した剥ぎ取り標本

終わりに

2年前に、始良市の柁城小学校内の桜島爆発記念碑の拓本採取に着手した日に奇しくも東日本大震災が発生した。これも何かの因縁を感じる。自然の驚異や先人からの教訓を学び、火山との共生を考える絶好の機会として、これらの噴火遺産の標本を有効的に活用し、有意義な企画展示になるようにしていきたい。

最後に始良市教育委員会の下鶴 弘氏には拓本採取の指導、助言をいただいた。また、南大隅町大中尾川北公民館、柁城小学校、東桜島小学校には拓本作成、県立埋蔵文化財センターには剥ぎ取り資料作成の便宜を図っていただいた。この場を借りて感謝の意を表す。

参考文献

- 鈴木敏之（2010）大正3年桜島爆発記念碑等の現状について。鹿児島県立博物館研究報告，29:86-96.
- 鈴木敏之（2011）種子島における大正3年桜島爆発記念碑等の現状について。鹿児島県立博物館研究報告，30:73-75.
- 鈴木敏之（2012）大正3（1914）年桜島爆発記念碑等の現状と今後の課題について。鹿児島県立博物館研究報告，31:79-86.
- 鹿児島県埋蔵文化財センター（2012）設立20周年記念フォーラム資料集「遺跡から見える鹿児島の歴史と文化」，第Ⅱ章 遺跡速報 下原遺跡：42.

表1 桜島大正噴火の記録を残す記念碑等（平成25年1月末現在）

鹿児島県立博物館

番号	碑タイトル（表面）	所在地	建立月日	建立者	碑の材質	補助碑	爆発碑	移住碑	関連碑	備考	
1	櫻島爆発記念碑	鹿児島市東桜島町 東桜島小学校	大正13年1月	東桜島町	安山岩		○				1924（大正13）年1月
2	櫻島爆発記念碑	鹿児島市桜島小池町 桜洲小学校	大正4年1月21日		安山岩		○				1915（大正4）年1月21日
3	櫻島爆発記念碑	鹿児島市桜島松浦町 桜峰小学校	大正8年5月21日	西桜島町村？	安山岩		○			桜島町誌に記載あり	1919（大正8）年5月21日
4	有村一同祖先歴代總塔	鹿児島市有村町 共同墓地内	大正5年12月	不明（記載なし）	溶結凝灰岩				△		1916（大正5）年12月
5	櫻島爆発記念	鹿児島市有村町 若宮神社境内	不明（記載なし）	不明（記載なし）	安山岩		○				不明（記載なし）
6	大正噴火（桜洲尋常・高等小学校埋没跡）	鹿児島市桜島横山町 桜島ユースホテル敷地内	昭和39年1月12日 昭和46年晩秋（追加）	明治28年第1回卒業生 鹿児島県知事寺園勝志	花こう岩 安山岩 花こう岩（補助碑）	あり	○			主碑：大正噴火（桜洲尋常・高等小学校埋没跡） 追加碑が両脇に2つ	1964（昭和39）年1月12日 1966（昭和46）年晩秋（追加）
7	大正噴火九十周年記念碑	鹿児島市桜島横山町 レインボー桜島	平成16年10月17日	桜島町長 竹ノ下光	安山岩 花こう岩（補助碑）	あり	○				2004（平成16）年10月17日
8	櫻島爆発記念碑	鹿児島市城山町 照國公園（県立博物館裏）	大正5年12月	鹿児島市役所	花こう岩		○				1916（大正5）年12月
9	櫻島爆発記念碑	鹿児島市伊敷町 諏訪神社（伊敷小学校前）	大正4年1月12日	？村長，校長あり	溶結凝灰岩		○			上伊敷人民中	1915（大正4）年1月12日
10	櫻島爆発記念碑	鹿児島市伊敷町 肥田，ユーツ（株）近く	大正3年4月10日	？青年中寄附金	溶結凝灰岩		○				1914（大正3）年4月10日
11	櫻島爆発記念	鹿児島市伊敷町 甲突川左岸・田中宇都橋	不明（記載なし）	不明（記載なし）	溶結凝灰岩		○			隣に耕地整理記念碑あり	不明（記載なし）
12	櫻島爆発記念碑	鹿児島市宇宿三丁目 脇田公園	不明（記載なし）	不明（記載なし）	溶結凝灰岩		○				不明（記載なし）
13	櫻島爆発記念碑	鹿児島市上福元町 辻之堂後公民館	大正9年11月20日	原口青年會？	溶結凝灰岩		○			風化のため碑文読難	1920（大正9）年11月20日
14	櫻島爆発記念碑	鹿児島市郡山町 常磐	大正5年10月22日	村長	溶結凝灰岩		○			郡山町郷土誌に記載あり	1916（大正5）年10月22日
15	昭和大典記念碑	霧島市福山町 池ノ谷地区集会施設	昭和3年12月1日		溶結凝灰岩				○	故立山嘉兵衛氏記念碑（左側面）	1928（昭和3）年12月1日
16	記念碑	霧島市隼人町浜之市 隼人港近く	大正5年2月11日	？	安山岩		○			隼人郷土誌（郷土誌年表）に記載	1916（大正5）年2月11日
17	櫻島爆発記念碑	始良市加治木町 柁城小学校	大正7年1月		溶結凝灰岩		○			風雨のため碑文読難	1918（大正7）年1月
18	櫻島大爆発記念碑	鹿屋市輝北町市成 上沢津公民館	大正9年1月12日	青年團	溶結凝灰岩		○				1920（大正9）年1月12日
19	櫻島爆発記念碑	鹿屋市輝北町百引 愛宕	不明（記載なし）	（遠矢書）	溶結凝灰岩		○			隣に里道改修記念碑あり	不明（記載なし）
20	記念碑 櫻島爆発	鹿屋市輝北町上百引 旧岳野小学校跡地（廃校）	大正15年3月25日	百引・牛根両嶽野	溶結凝灰岩		○				1926（大正15）年3月25日
21	櫻島噴火記念	曾於市大隅町東坂元 東坂元自治会館	大正3年4月3日	不明（記載なし）	溶結凝灰岩		○				1914（大正3）年4月3日
22	御即位記念碑 サクラ島フン火	曾於市大隅町中之内 梶ヶ野公民館	大正4年11月12日	岩川村中之内梶ヶ野区民一同	溶結凝灰岩				○		1915（大正4）年11月12日
23	櫻島移民祖先之霊	鹿屋市花里町 花里公民館	不明（記載なし）	不明（記載なし）	溶結凝灰岩			○			不明（記載なし）
24	櫻島爆発移住記念碑	肝属郡錦江町桜原	昭和3年3月6日		溶結凝灰岩			○	△	△：水道記念（左側面）	1928（昭和3）年3月6日
25	移住記念碑	肝属郡南大隅町大中尾 大中尾公民館	大正15年3月21日 平成10年2月（追加）	百引・川南・川北区長	花こう岩 花こう岩（追加碑）	あり		○			1926（大正15）年3月21日 1998（平成10）年2月（追加）
26	土地所有者権移轉記念碑	垂水市大野原 大野原多目的集会施設	不明（記載なし）		溶結凝灰岩			○			不明（記載なし）
27	移住記念碑	小林市大王 大王公民館	大正12年1月12日 平成6年5月5日（追加）	西諸縣郡長 桜島町長竹ノ下光	安山岩	あり		○			1923（大正12）年1月12日 1994（平成6）年5月5日（追加）
28	記念碑	西之表市国上 桜園神社境内	不明（記載なし） 昭和59年4月13日（追加）	不明（移住者？）	砂岩 カンブナイト（追加碑）	あり		○	△	追加碑として部落創立七拾周年記念碑が右隣にあり（移住記載あり）	不明（記載なし） 1979（昭和59）年4月13日（追加）
29	噴火 移住記念	西之表市古田 平松公民館	大正3年5月8日	不明（移住者？）	砂岩			○			1914（大正3）年5月8日
30	移住記念碑	西之表市古田 二本松水田再編研修センター	昭和23年4月1日		砂岩			○			1948（昭和23）年4月1日
31	創立70周年記念碑	西之表市 旧鴻峰小学校	平成元年3月	第54回卒業生	カンブナイト				△	△：卒業記念に移住の記載	1989（平成元）年3月
32	移住記念碑	西之表市中割 国道58号線沿い	（大正3年3月12日？） 移住？建立？		砂岩			○		3月12日が移住日なのか建立日なのか不明？	（大正3年3月12日？） 移住？建立？
33	櫻島爆発土地復舊工事記念碑	鹿児島市桜島武町 南方神社境内	大正14年4月12日	西桜島村耕地整理組合	安山岩		○		△		1925（大正14）年4月12日
34	櫻島爆発記念	日置市東市来町郷戸（ごと）		村長齋藤仲蔵？	溶結凝灰岩		○			并進舎建築	
35	上福元 塩屋 耕地整理記念 櫻島爆発	鹿児島市東谷山 桜川公園内			溶結凝灰岩				○		
36	櫻島大爆発移住記念碑	大崎町野方 角堂	昭和59年8月吉日	三代目松元正夫建之	砂岩 花こう岩（追加碑）	あり		○			1979（昭和59）年8月吉日
37	串良川改修記念碑	鹿屋市串良町 豊栄橋左岸	大正6年6月	鹿児島県懸知事 高岡直吉	溶結凝灰岩				▲	▲：桜島噴火の記載あり	1917（大正6）年6月
38	堰改築碑	鹿屋市串良町細山田 井手神社	昭和5年5月建立	鹿児島県懸知事 山口安憲	溶結凝灰岩				▲		1930（昭和5）年5月建立
39	新水門記	鹿屋市串良町細山田 井手神社	大正10年11月	東西両串良林田堰普通水利組合者	溶結凝灰岩				▲		1921（大正10）年11月
40	開物成務の碑	鹿屋市串良町 大塚山公園	昭和10年4月17日	農林省耕地課長 片岡謙撰	溶結凝灰岩				▲		1935（昭和10）年4月17日
41	復舊工事記念碑	鹿屋市高隈町 上重田	昭和10年4月	第一代耕地整理組合長 東一左右ほか	溶結凝灰岩				▲		1935（昭和10）年4月
42	河川改修記念碑	鹿屋市下高隈町	大正5年3月19日		溶結凝灰岩				▲	大正5年2月改修竣工	1916（大正5）年3月19日
43	第2回河川記念碑	鹿屋市下高隈町	大正10年2月竣工		溶結凝灰岩				▲	大正10年2月竣工	
44	城山隧道碑	鹿屋市下高隈町 高隈城跡	大正4年8月1日	工事委員 坂元友二ほか	溶結凝灰岩				▲		1915（大正4）年8月1日
45	堤塘竣工記念碑	霧島市国分広瀬 大穴持神社	昭和29年3月	記念碑建設発起人委員長 中馬猪之吉	安山岩				▲		1949（昭和29）年3月
46	土地整理記念碑	曾於市大隅町二重堀 大隅北公民館	昭和35年4月21日	鹿児島県知事 寺園勝志	溶結凝灰岩				▲		1960（昭和35）年4月21日
47	記念碑／水神	始良市重富 重富海岸堤防	不明（記載なし）	不明	溶結凝灰岩				△		
48	塩田の碑	始良市松原 塩釜公園	昭和43年12月	歴代場長 養毛三蔵ほか	溶結凝灰岩				△		1968（昭和43）年12月
49	櫻島爆発記念	霧島市溝辺町大川内岡 愛郷平和祈年公園	大正3年2月11日	北原青年團	溶結凝灰岩		○				1914（大正3）年2月11日
50	櫻島爆発記念	鹿児島市吉野町下花棚 下花棚公民館	不明（記載なし）	青年団	溶結凝灰岩		○			櫻の文字が欠損	